

長久手市総合計画策定に係る基礎調査 概要版

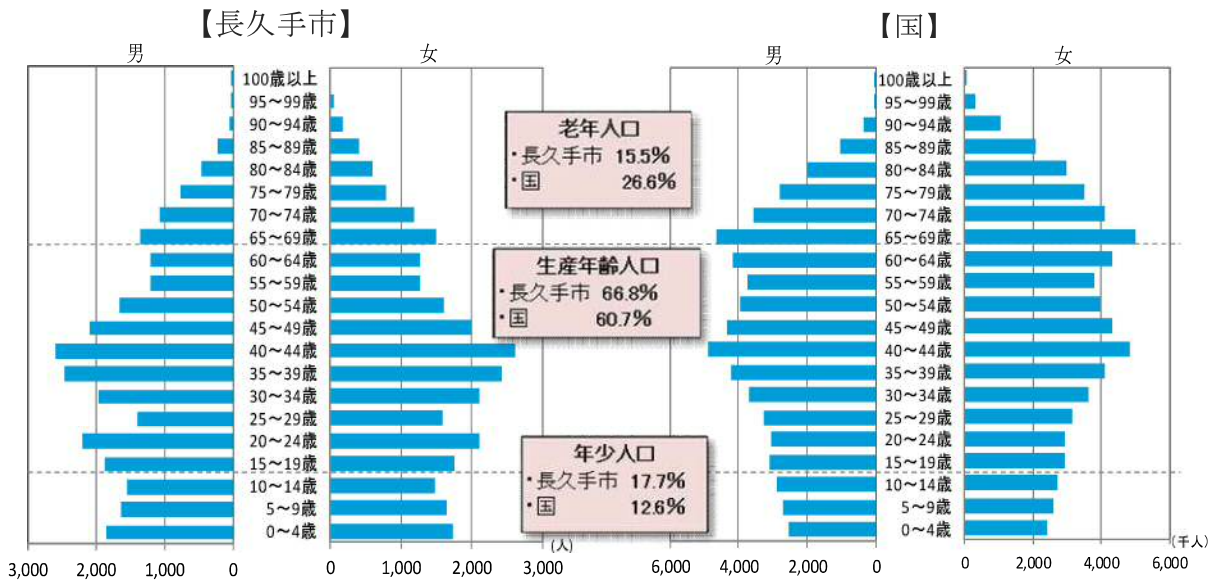
長久手市の特性・・・・・・・・・・・・・・・・	1
市民アンケートにみる市政に対する評価・・・・・・・・	9
第5次総合計画における施策の評価・・・・・・・・	14
将来の推計人口・・・・・・・・・・・・・・・・	15

平成 29 年 3 月
長久手市

長久手市の特性

長久手市の特性は、若い世代が住み、人が集まるまち

- 本市の人口構成を国と比較すると、年少人口の割合（17.7%）と生産年齢人口の割合（66.8%）が高く、老年人口の割合（15.5%）は低くなっています。（図1）
- 15～24歳と35～49歳の世代が多くなっています。（図1）
- 人口の伸び率をみると、周辺市町が横ばい傾向であるのに対して、本市においては増加傾向を示しています。（図2）



資料：国勢調査（H27）

図1 長久手市と国の人口ピラミッド（平成27年）

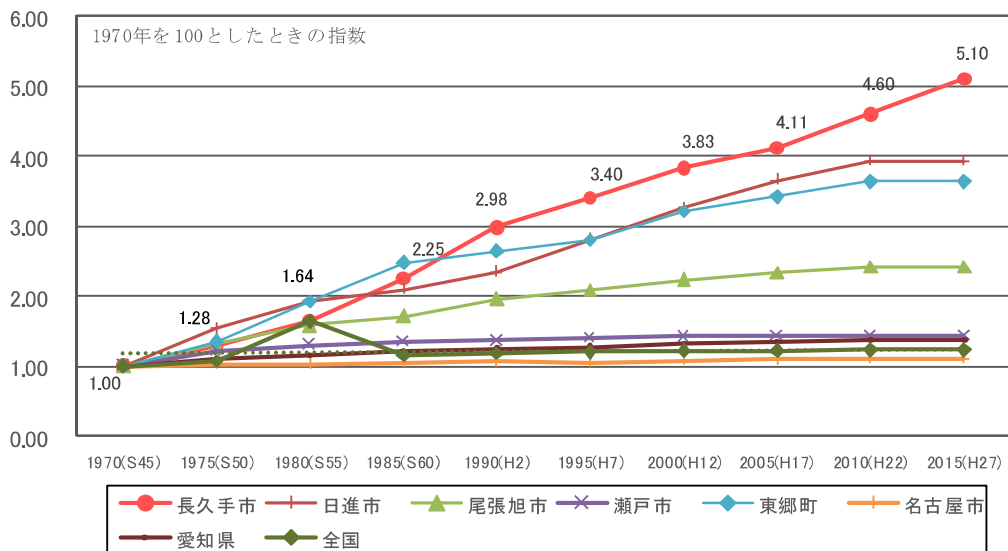
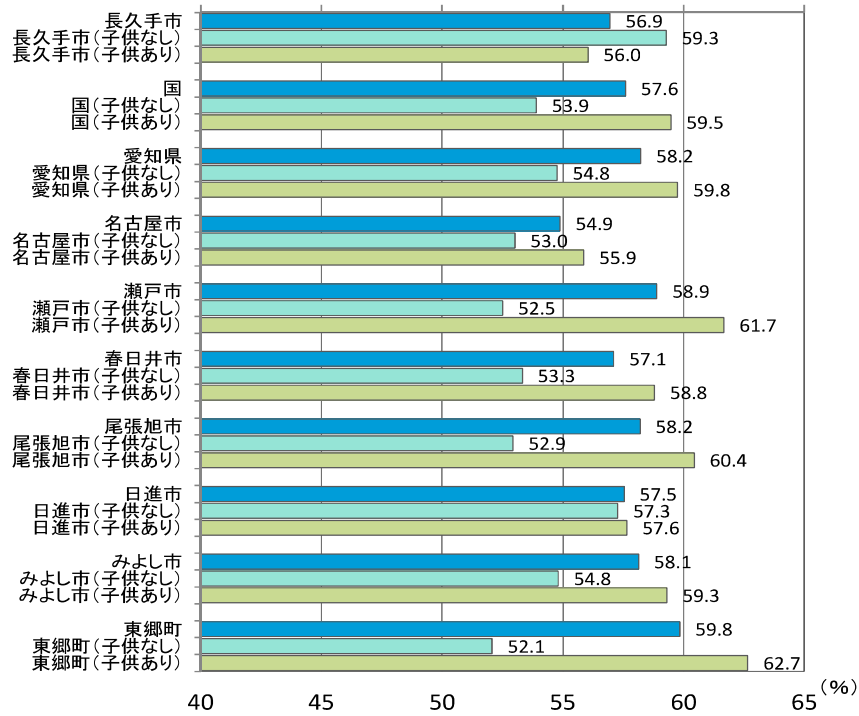


図2 人口の伸び率の推移

資料：国勢調査

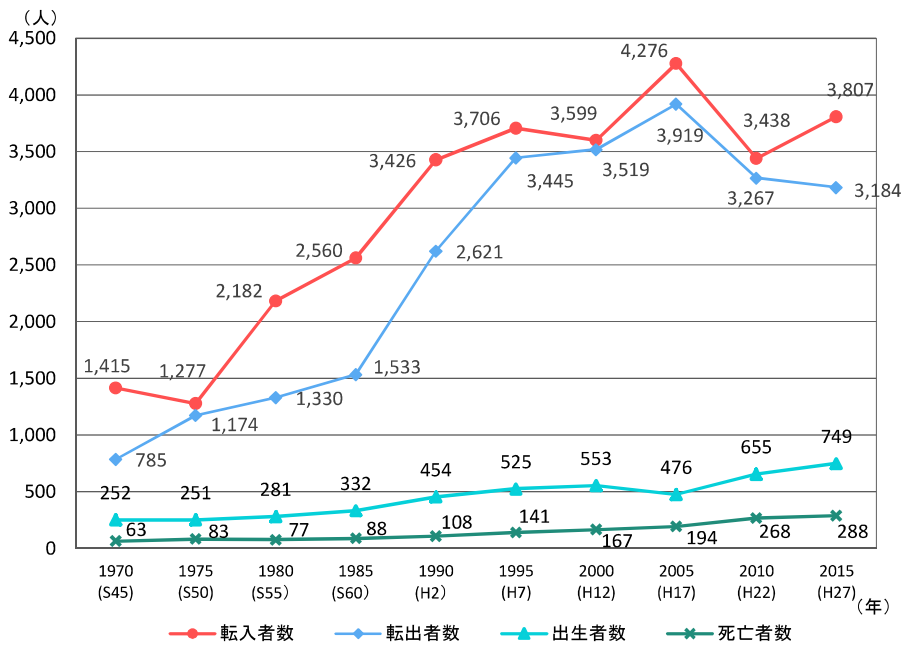
長久手市の特性

- 本市の共働き率は、子どものいない世帯の共働き率（59.3%）が、子どものいる世帯の共働き率（56.0%）よりも高いという特徴があります。多くの自治体はこれとは反対の傾向です。（図3）
- 自然増（出生者数＞死亡者数）と社会増（転入者数＞転出者数）の傾向が続いています。（図4）



資料：国勢調査（H27）

図3 共働き率

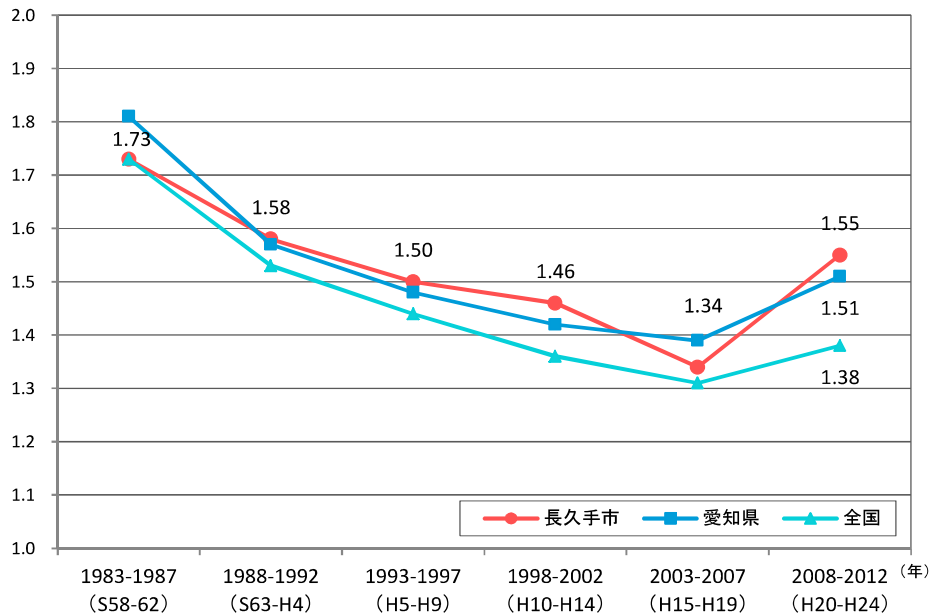


資料：ながくての統計（市民課）

図4 自然増減と社会増減

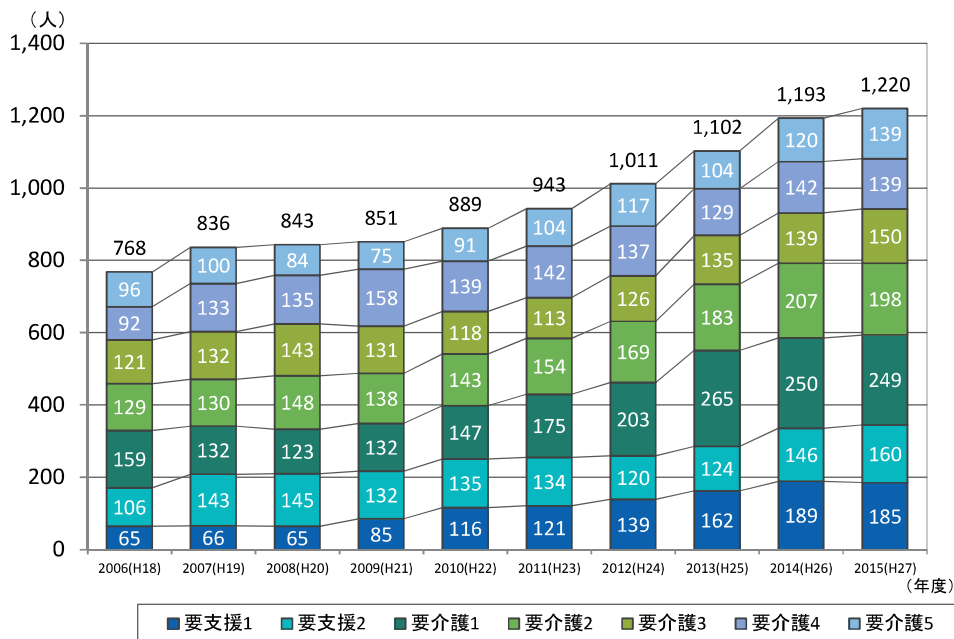
長久手市の特性

- 合計特殊出生率は、2007（H19）年まで下降していましたが、その後上昇しています。子育て世代の転入が増えており、そうした人たちによる出産の影響が考えられます。（図5）
- 要介護・要支援の認定者数は、増加傾向にあります。（図6）



資料：人口動態保健所・市区町村別統計

図5 合計特殊出生率の推移

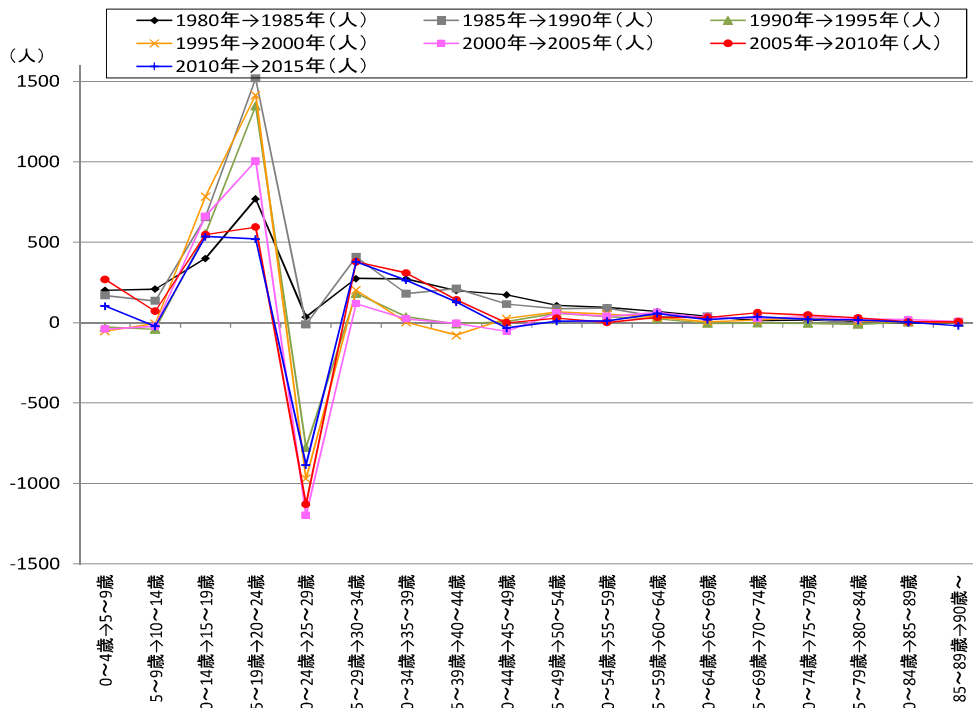


資料：ながくての統計（長寿課）

図6 要介護・要支援認定者数の推移

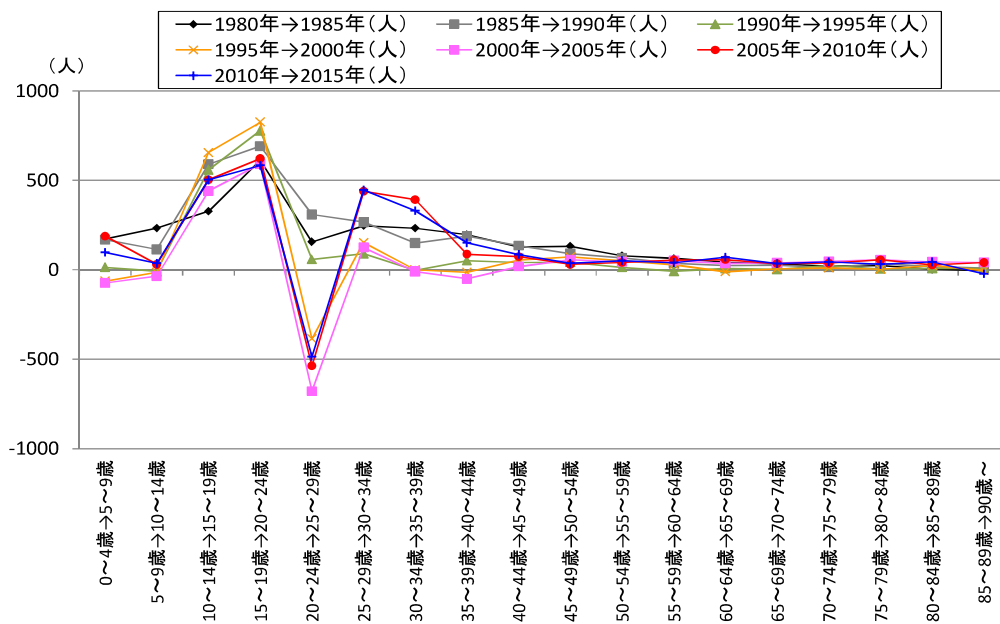
長久手市の特性

- 人口移動の状況を見ると、男女ともに20歳前後の転入と25歳前後の転出が多く、これは市内及び周辺の大学立地による影響と考えられます。(図7、8)
- 30~40歳代では転入超過となっており、これは土地区画整理事業や民間開発事業による宅地供給の影響と考えられます。(図7、8)



資料：国勢調査、総務省「住民基本台帳人口移動報告」

図7 年齢5階級別の純移動数の時系列変化（男性）

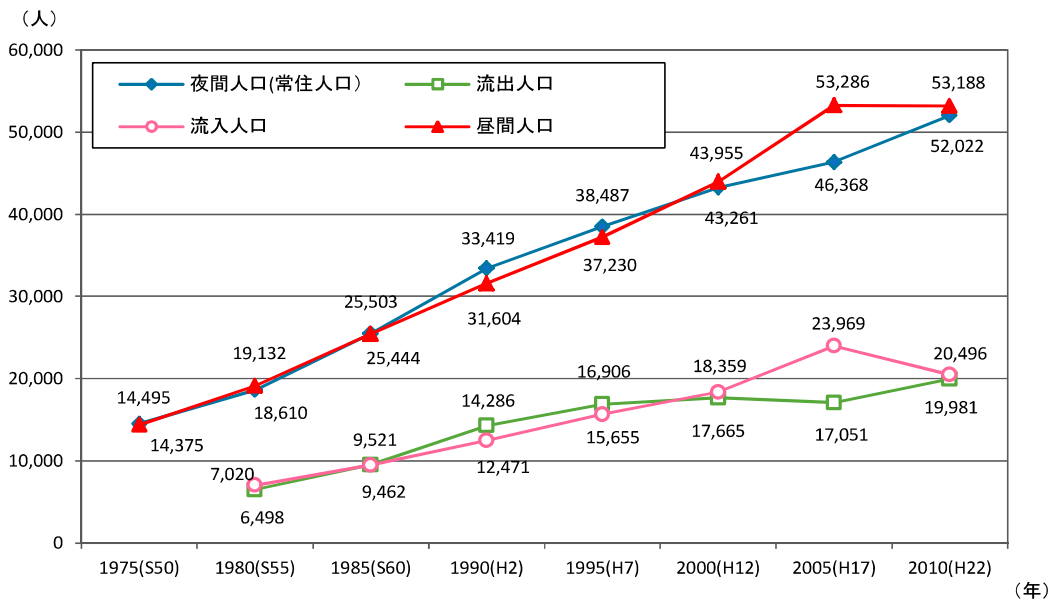


資料：国勢調査、総務省「住民基本台帳人口移動報告」

図8 年齢5階級別の純移動数の時系列変化（女性）

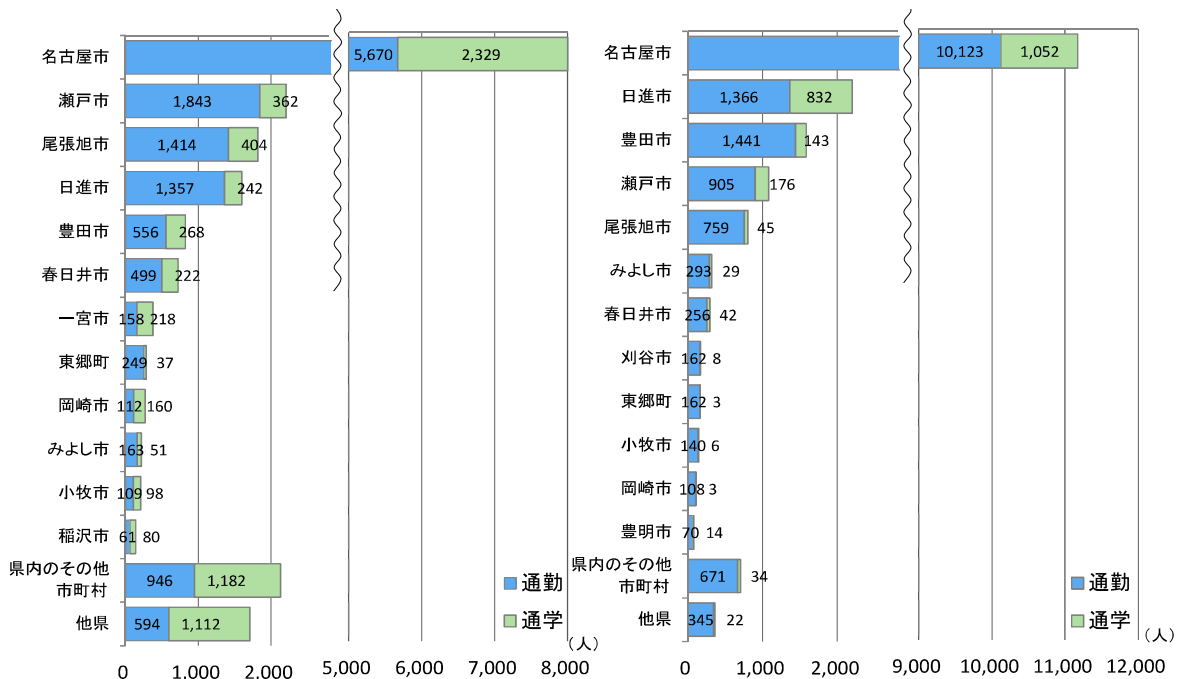
長久手市の特性

- 昼夜間人口については、2005（H17）年の愛・地球博の開催時に昼間人口が夜間人口を大きく上回ったが、その後はほぼ拮抗する状態となっている。（図9）
- 通勤の流入では名古屋市、瀬戸市が多く、流出は名古屋市、豊田市が多い。通学の流入では名古屋市、尾張旭市が多く、流出は名古屋市、日進市が多い。（図10、図11）



資料：国勢調査

図9 昼夜間人口と流出入人口の推移



資料：国勢調査（H22）

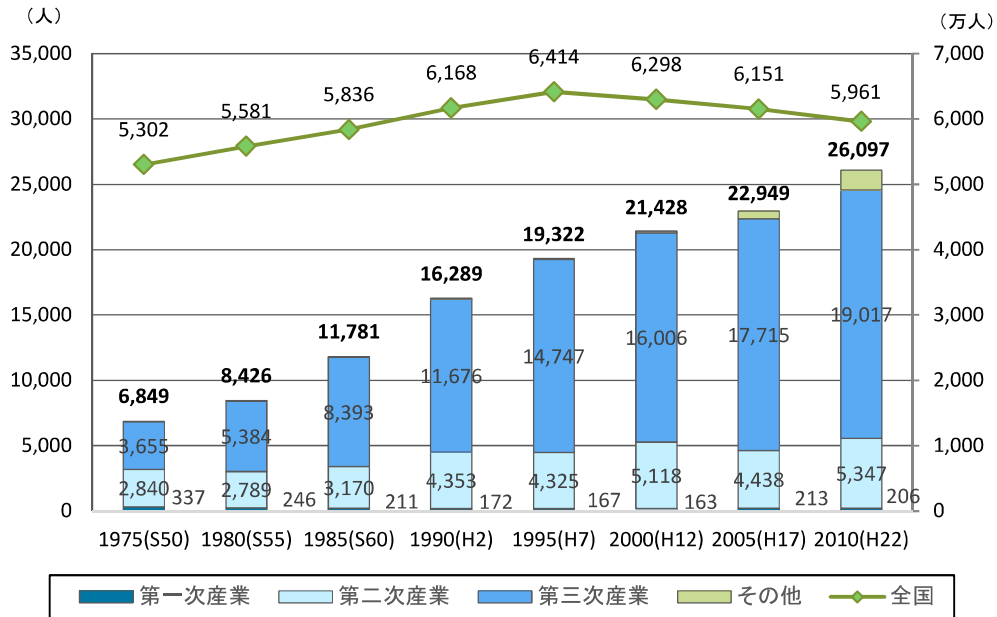
資料：国勢調査（H22）

図10 市町別の通勤者及び15歳以上の通学者による流入人口

図11 市町別の通勤者及び15歳以上の通学者による流出人口

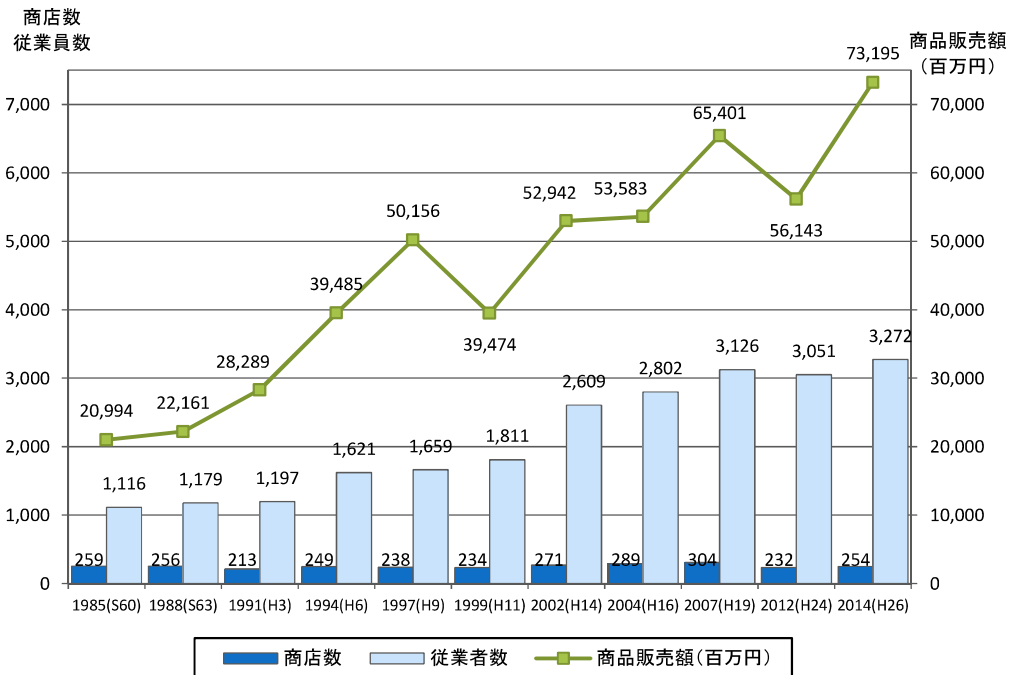
長久手市の特性

- 全国的に就業人口が2000（H12）年から減少傾向にある中で、本市では人口増加に比例して就業人口も増加しています。（図12）
- 小売業については、従業者数と商品販売額が増加しています。（図13）



資料：国勢調査

図12 就業人口の推移



資料：商業統計、経済センサス

図13 小売業の推移

長久手市の特性

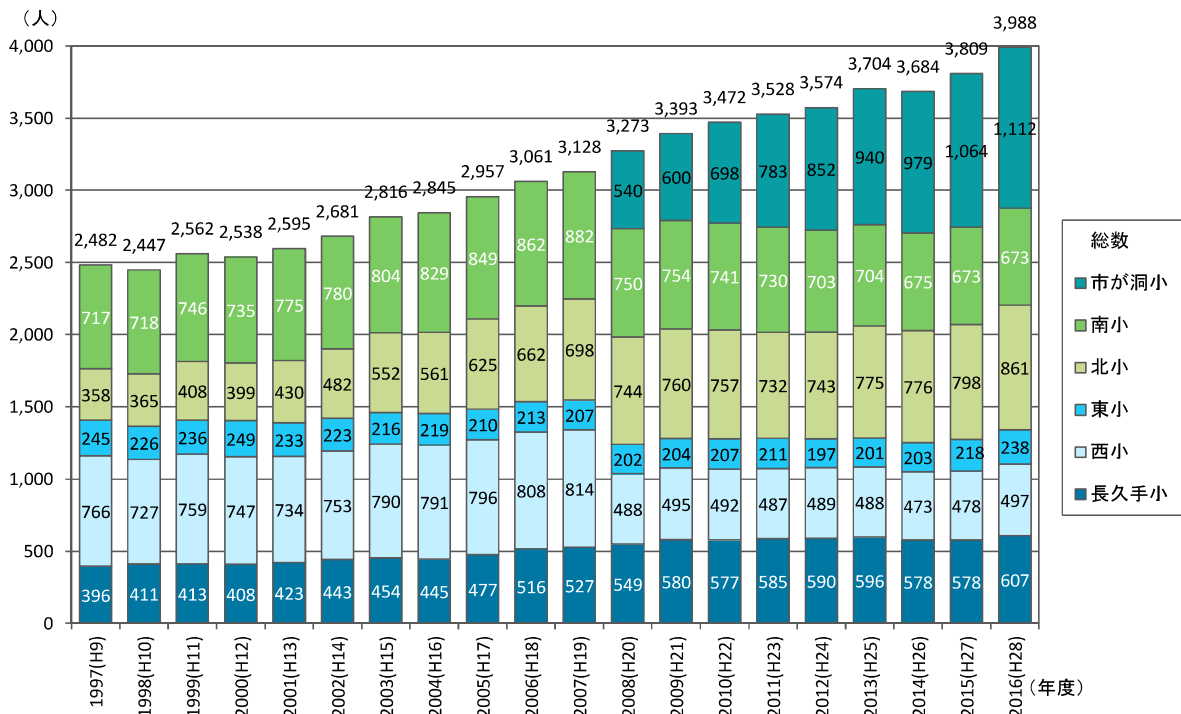
- 昭和 40 年代後半から土地区画整理事業による宅地開発が継続しており、現在も、公園西駅周辺地区、長久手中央地区、下山地区で進行中です。（表 1）
- 人口の増加にあわせて、小学校児童数の増加傾向が続いています。（図 14）

表 1 土地区画整理事業一覧

H28.10.1 現在

	面積 (ha)	事業年度	計画戸数	計画人口	備考
公園西駅周辺	20.6	H25～H35	480	1,200	施行中
長久手中央	27.4	H22～H31	691	1,730	施行中
下山	5.5	H25～H30	180	450	施行中
長湫南部	98.2	H10～H26	1,880	5,000	完了
長湫中部	106.7	S56～H25	2,732	8,742	完了
長湫西部	158.9	S47～H12	3,907	14,847	完了
長湫東部	163.5	S48～H5	3,806	14,463	完了
長湫下山第一	13.6	S53～S56	332	1,261	完了
岩作第一	4.7	H4～H16	114	342	完了

資料：ながくての統計（区画整理課）

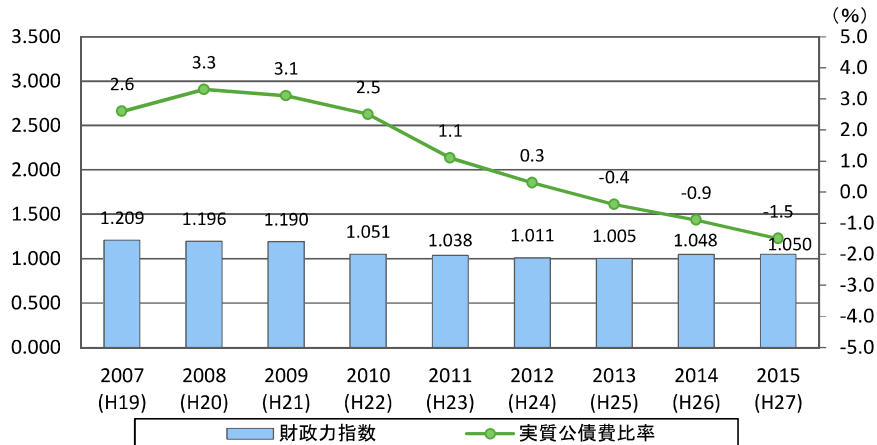


資料：ながくての統計（学校基本調査）

図 14 小学校児童数の推移

長久手市の特性

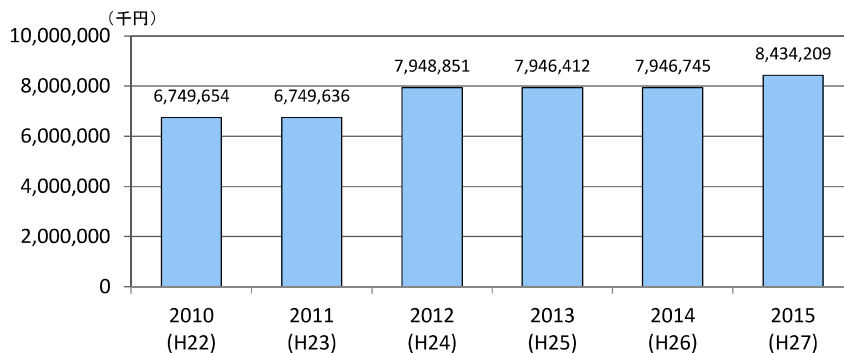
- 本市の財政状況は、財政力指数からみると比較的安定して推移していますが（図 15）、普通会計分の地方債残高は増加傾向にあります。（図 16）
- 一方で、基金残高は減少傾向にあり、今後想定される公共施設の更新や大規模修繕のほか、高齢化に伴う扶助費の増大等のための財源確保のため、計画的に基金の積立を行っていく必要があります。（図 17）



財政力指数： 地方公共団体の財政上の能力を示す指数であり、1を超えるほど財源に余裕があるとされています。
 実質公債費比率： 借入金（地方債）の返済額及びこれに準じる額の大きさを指標化し、資金繰りの程度を表す指標。

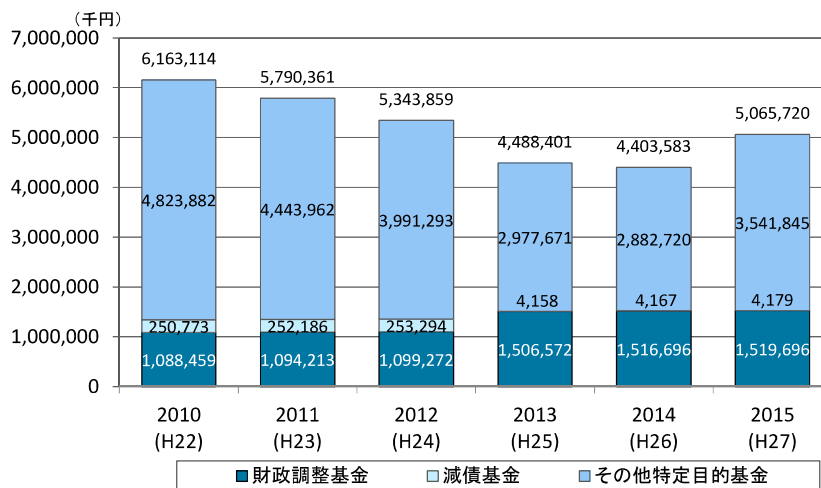
資料：ながくての統計（地方財政状況調査）

図 15 財政力指数と実質公債費比率の推移



資料：決算カード

図 16 普通会計分の地方債残高の推移



資料：決算統計

図 17 基金残高の推移

市民アンケートにみる市政に対する評価

○ 平成 28 年 10～11 月に、住民基本台帳から無作為抽出された市内在住の満 18 歳以上の方 5,000 人に調査票を送付し、2,366 人（回収率 47.3%）のみなさんに回答をいただきました。

●調査対象者の属性

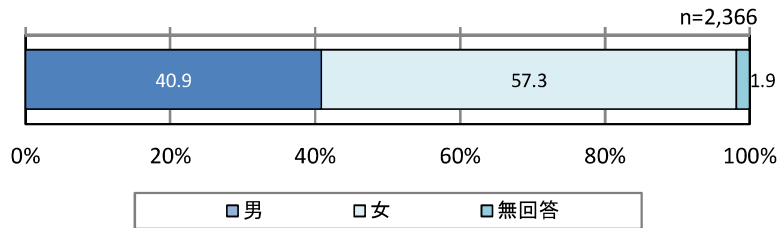


図 18 性別

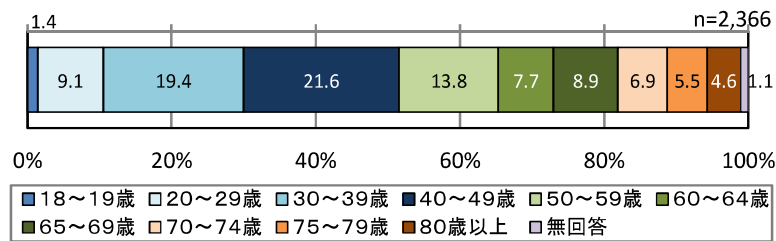


図 19 年齢

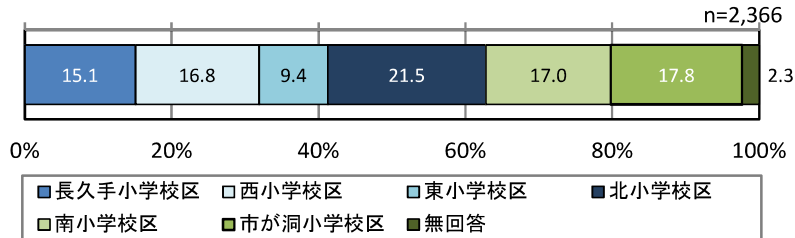


図 20 居住学区

資料：長久手市市民意識調査（以下同様）

●長久手市の住み心地

○ 「住みよい」と「まあ住みよい」を合わせると約9割となっており、前回調査とほぼ同様の結果になっております。（図 21）

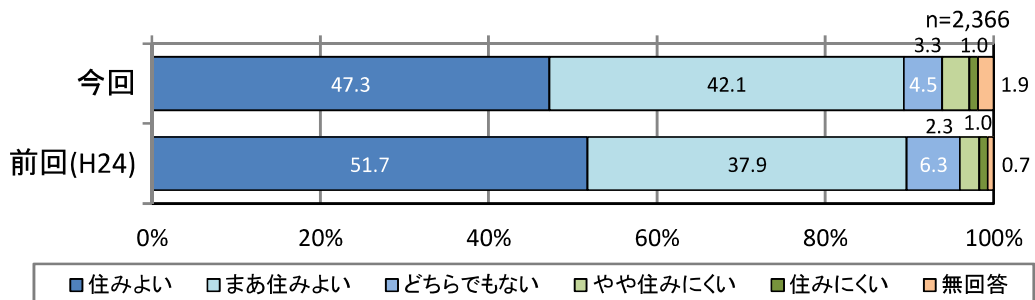


図 21 長久手市の住み心地

市民アンケートにみる市政に対する評価

●定住意向

○「住み続けたい」と思う人は約8割（81.7%）で、前回調査より増加しています。（図 22）

⇒ その理由として、「住み慣れていて愛着がある」「買い物に便利」「自然環境がよい」が上位となっています。（図 23）

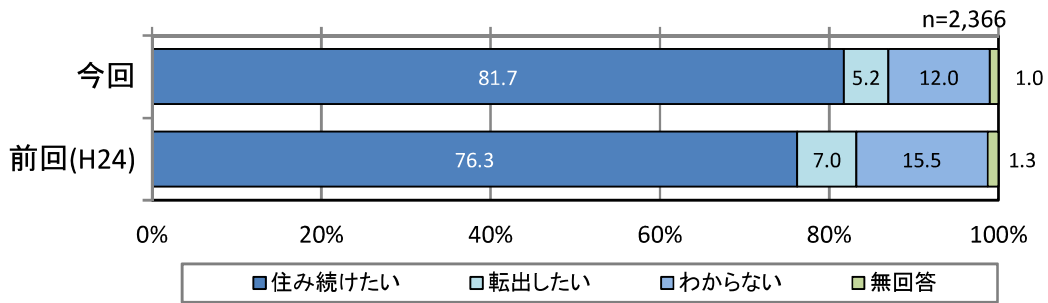


図 22 長久手市の定住意向

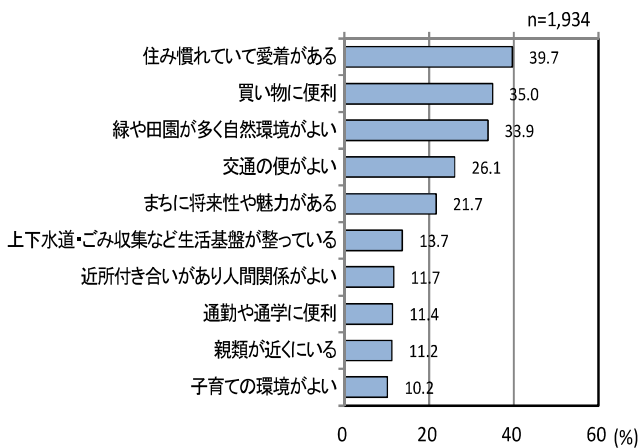


図 23 住み続けたいと思う理由

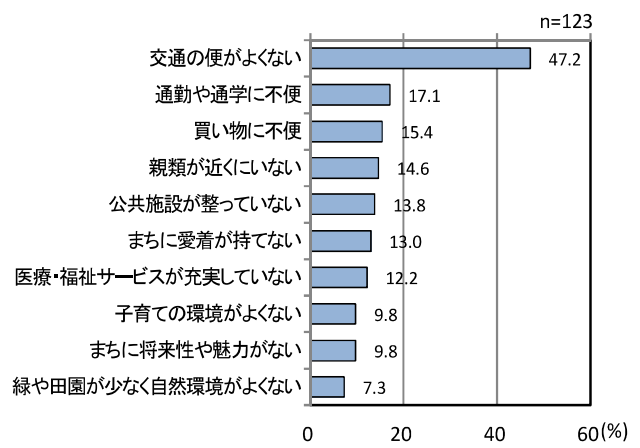


図 24 転出したいと思う理由

●市政への満足度

○市政への満足度は、「満足している」と「まあ満足している」を合わせると、37.1%で、前回調査より 4.2 ポイント向上しています。（図 25）

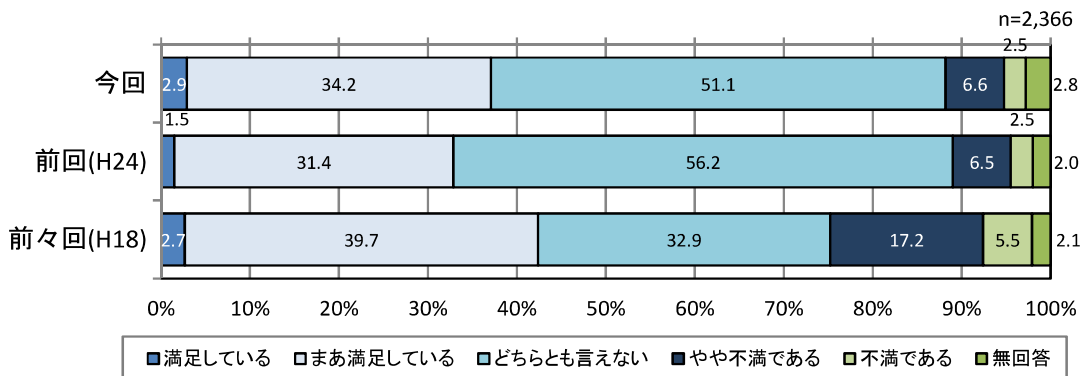


図 25 市政全般の満足度

市民アンケートにみる市政に対する評価

●施策の推進状況の評価

○市の施策の推進度については、ほぼ9割の施策が0点以上でプラス評価されています。
 ○施策の重要度が高いが、推進度が低い項目は、“地域の防犯力が高まっている”、“災害に強いまちである”、“交通安全の意識が高まっている”、“公共交通機関による移動が便利である”、“障がい者にとって暮らしやすいまちである”、“小中学校の教育内容や教育環境が充実している”、“高齢者が安心して暮らせるまちである”の7項目です。

(図 26)

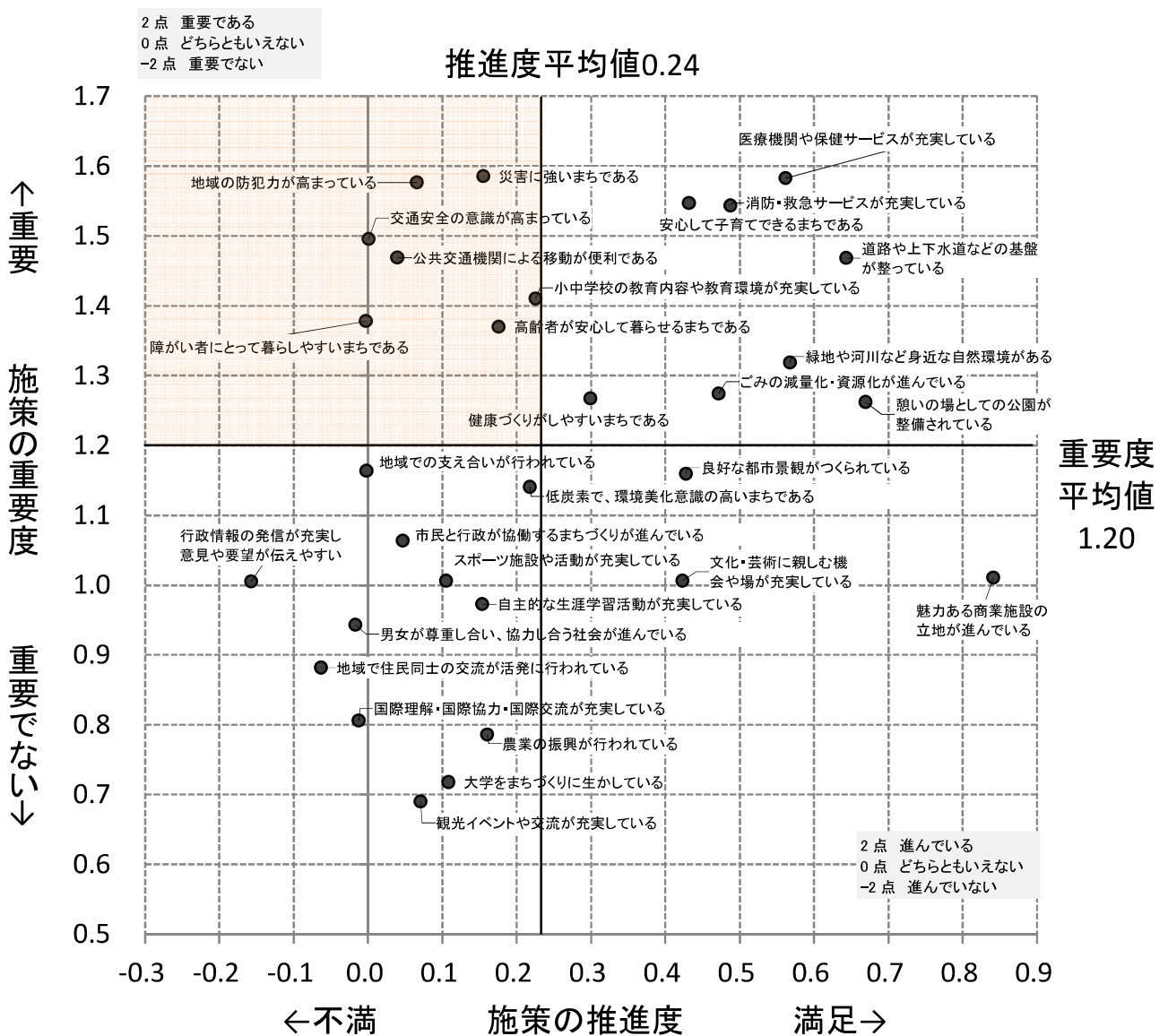


図 26 基本施策の重要度・推進度

市民アンケートにみる市政に対する評価

○推進度について前回調査と比べると、ほとんどの施策において前回調査より評価が高くなっています。(図 27)

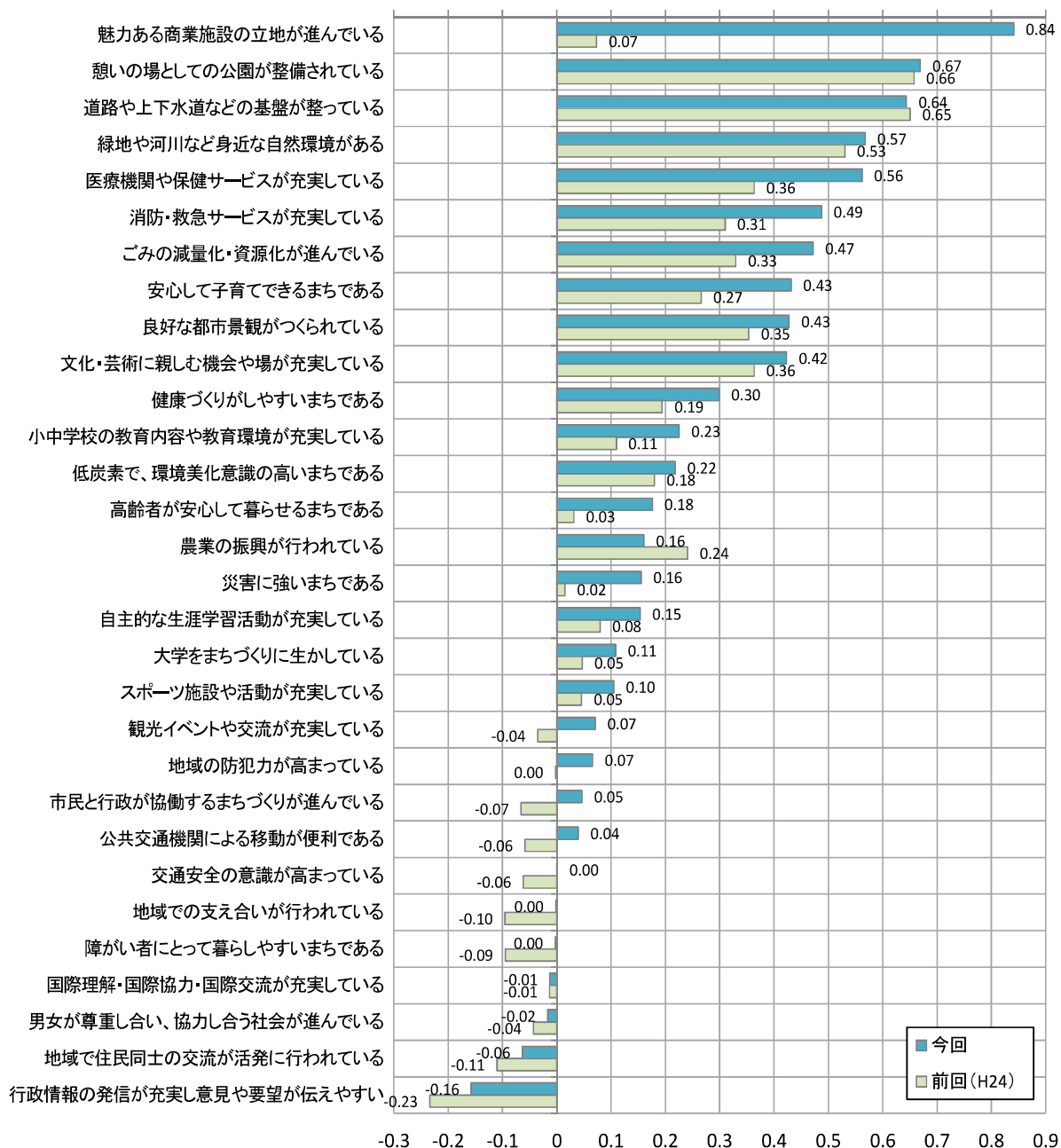


図 27 基本施策の推進度（経年変化）

市民アンケートにみる市政に対する評価

●今後の重点施策

○今後力を入れるべき施策としては、「高齢者福祉の充実」、「防犯対策」、「学校教育の充実」、「公共交通機関の整備」「乳幼児・児童福祉の充実」が上位に入っています。(図 28)

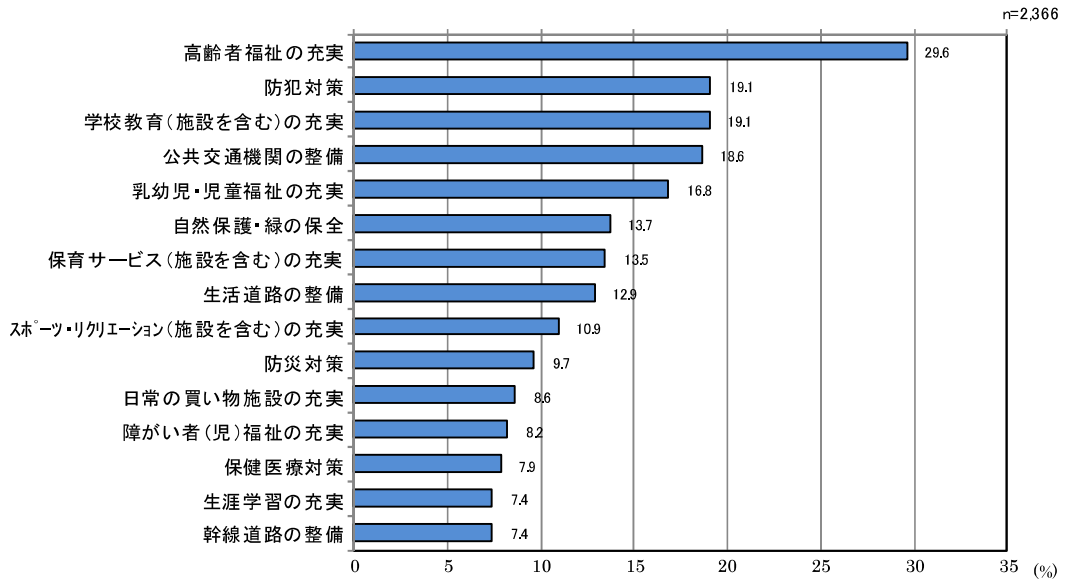


図 28 今後力を入れるべき施策

●将来像の実現のための手段

○将来像の実現のための手段としては、どの項目でも「市民と行政が協働で進めるべき」が28～52%と高くなっています。(図 29)

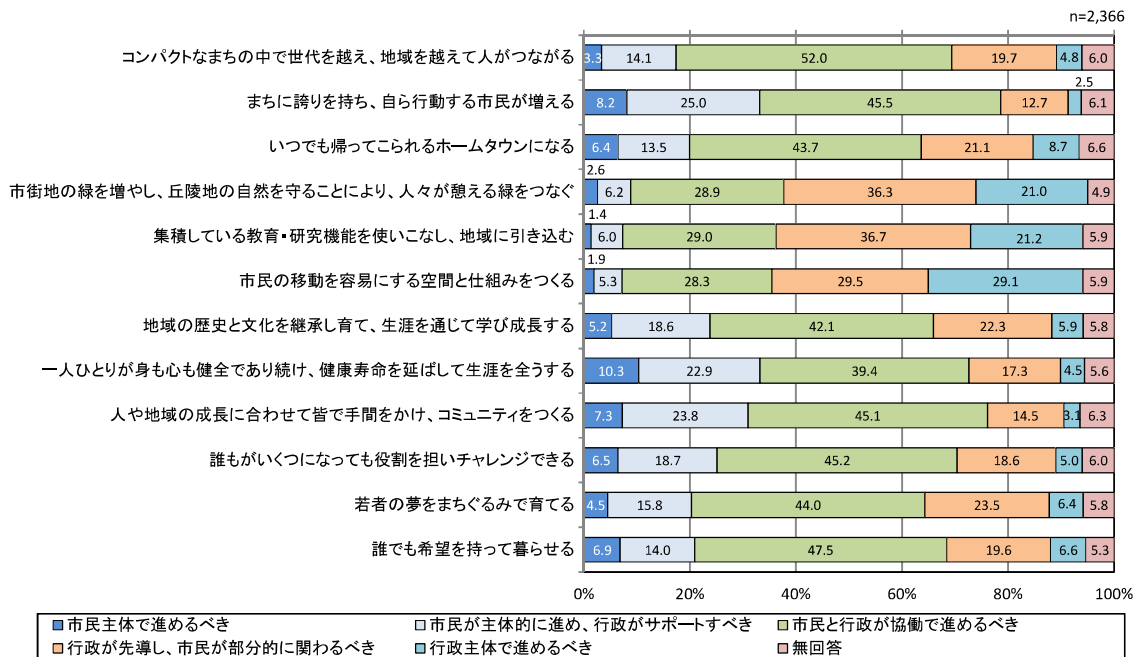


図 29 将来像の実現のための手段

第5次総合計画における施策の評価

○内部評価が高く、住民評価（推進状況）が低いものとしては、「地域全体で国際交流を進める」、「住民と行政が協働するまちづくりを進める」、「地域の防犯力を高める」、「男女がともに尊重し協力し合うまちをつくる」、「快適で便利な交通移動を確保する」などがあります。

【評価方法】

- ・それぞれ選択した回答の点数を推進度・重要度によって－2点～2点の5段階で得点化し、基本施策ごとに平均化。
- ・内部評価と住民評価とのかい離があるものについて、色付けで表示。

	内部評価より住民評価が高い		住民評価より内部評価が1ポイント以上高い
	住民評価より内部評価が0.5ポイント以上高い		住民評価より内部評価が1.5ポイント以上高い

基本方針	基本施策	内部評価	住民評価	
			推進状況	重要度
1.万博理念を継承し自然・環境にこだわるまち	1-1 環境にやさしいまちをつくる	0.00	0.22	1.14
	1-2 ごみの減量化・資源化を進める	-0.11	0.47	1.27
	1-3 公害のないまちをつくる	0.50	0.22	1.14
	1-4 だれもが憩い親しむ公園緑地を整える	1.57	0.67	1.26
	1-5 豊かな自然環境を次世代に継承する	1.22	0.57	1.32
	1-6 うるおいある水辺空間を整える	1.00	0.57	1.32
	1-7 農のあるくらし・農のあるまちを支える	1.58	0.16	0.79
2.リノモでにぎわい交流するまち	2-1 魅力ある市街地を創り出す	2.00	0.64	1.47
	2-2 地区の特性に合った住まいを誘導する	1.60	0.64	1.47
	2-3 安全で快適な道路を整える	1.08	0.64	1.47
	2-4 安全で安定した給水を確保する	0.83	0.64	1.47
	2-5 下水道を整え清潔・快適・安全なまちをつくる	1.29	0.64	1.47
	2-6 快適で便利な交通移動を確保する	1.60	0.04	1.47
	2-7 駐車場・駐輪場を整え良好な生活環境をつくる	0.75	0.04	1.47
	2-8 魅力ある長久手らしい景観を創り出す	1.40	0.43	1.16
	2-9 魅力ある商工業を活発にする	1.43	0.84	1.01
	2-10 にぎわいあふれる新たな観光交流を進める	0.88	0.07	0.69
3.人がいきいきとつながるまち	3-1 災害に強いまちをつくる	1.14	0.16	1.59
	3-2 地域の防犯力を高める	1.67	0.07	1.58
	3-3 交通安全意識を高める気持ちを育む	1.29	0.00	1.50
	3-4 障害者が暮らしやすいまちをつくる	1.00	0.00	1.38
	3-5 ひとり親家庭の自立を支える	1.33	0.00	1.16
	3-6 地域で支え合う福祉の仕組みをつくる	1.17	0.00	1.16
	3-7 生活支援を必要とする住民の自立を支える	1.00	0.00	1.16
	3-8 高齢者の安心な暮らしと生きがいを支える	1.13	0.18	1.37
	3-9 安心して子育てができる環境をつくる	1.56	0.43	1.55
	3-10 住民を守る消防・救急サービスを充実する	0.33	0.49	1.54
	3-11 安心して暮らせる地域の医療体制を整える	0.67	0.56	1.58
	3-12 生活習慣病を予防する保健サービスを充実する	1.33	0.56	1.58
	3-13 住民の健康づくりを支える	0.00	0.30	1.27
	3-14 食育を進め健康な暮らしを支える	1.13	0.30	1.27
3-15 やすらぎのある墓園を整える	1.25	0.67	1.26	
3-16 働きやすい環境を整える	1.00	0.84	1.01	
3-17 安心で安全な消費生活を支える	1.25	0.84	1.01	
4.文化をみがき人が輝くまち	4-1 子どもの確かな学力と生きる力を培う	1.38	0.23	1.41
	4-2 住民の自主的な生涯学習活動を支える	1.00	0.15	0.97
	4-3 輝きを持った青少年の育成を支える	1.14	0.23	1.41
	4-4 文化・芸術に親しむ場と機会を充実する	1.38	0.42	1.01
	4-5 だれもが楽しむ生涯スポーツを進める	1.20	0.10	1.01
	4-6 男女がともに尊重し協力し合うまちをつくる	1.57	-0.02	0.94
	4-7 地域全体で国際交流を進める	1.71	-0.01	0.81
5.みんなの力を結集する自治と協働のまち	5-1 住民と行政が協働するまちづくりを進める	1.75	0.05	1.06
	5-2 地域住民が交流する自律的なまちをつくる	1.13	-0.06	0.88
	5-3 大学をまちづくりに生かす	0.75	0.11	0.72
	5-4 行政情報を提供し住民意見を聴く機会を充実する	1.00	-0.16	1.00
	5-5 合理的で効果的な行政運営を行う	1.27	-0.16	1.00
	5-6 住民の要請に的確に対応する職員を育てる	1.13	-0.16	1.00
	5-7 健全な財政運営を維持する	0.80	-0.16	1.00

将来の推計人口

- これまでの人口の社会増に大きな影響を与えていた土地区画整理事業や民間開発事業が減少し、それに伴い、人口増加の伸びは今後やや鈍くなり、平成 47（2035）年頃をピークに人口が緩やかに減少していくことが見込まれます。（図 30）
- 以上のことから、平成 35（2023）年の推計人口を 62,538 人、平成 40（2028）年を 64,334 人とします。

H35 年（2023 年） 基本計画（前期）目標年次	H40 年（2028 年） 基本構想目標年次
62,538 人	64,334 人

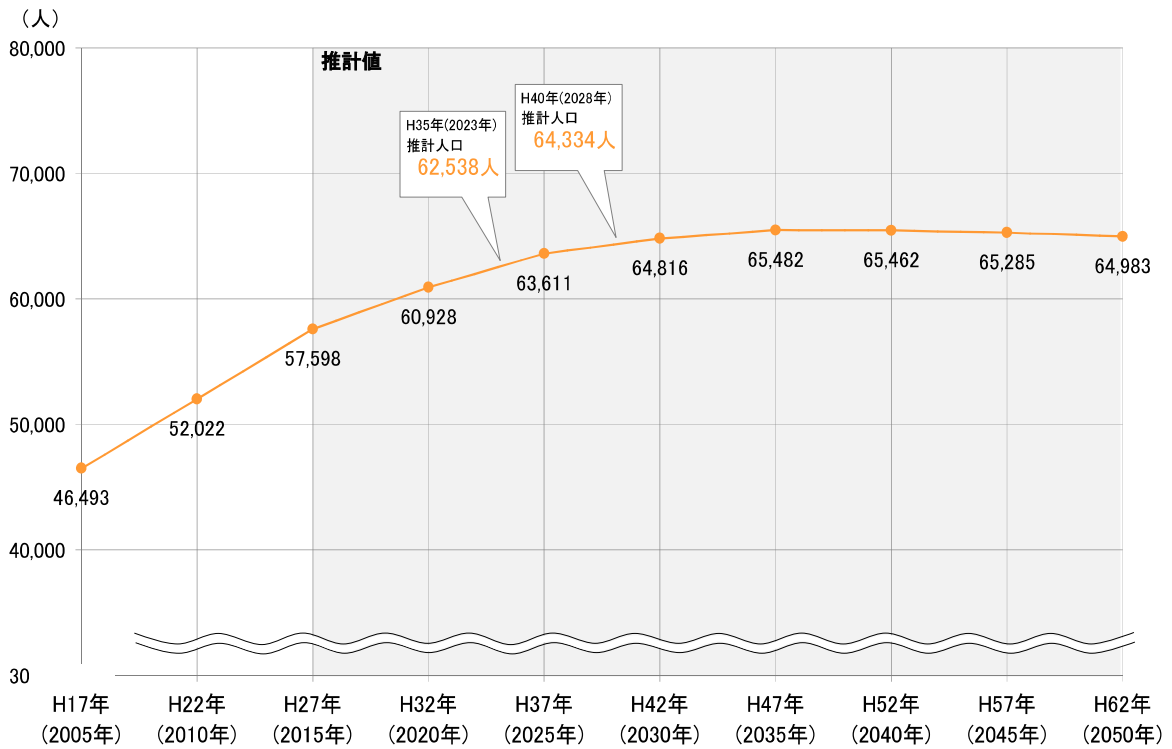


図 30 本市の人口推計

将来の推計人口

- 生産年齢人口の人数は、平成 37（2025）年の 41,036 人をピークに年々減少し続けて、平成 52（2040）年には、全体に占める割合が 60%を下回ります（図 31）。
- 平成 47（2035）年頃には、本市でも超高齢社会となり、団塊ジュニア（40 歳代）の世代が高齢者になり始める平成 52（2040）年頃から高齢化が一層進み、平成 57（2045）年頃には、前期高齢者と後期高齢者の割合が逆転し、後期高齢者の割合が高くなります（図 31）。

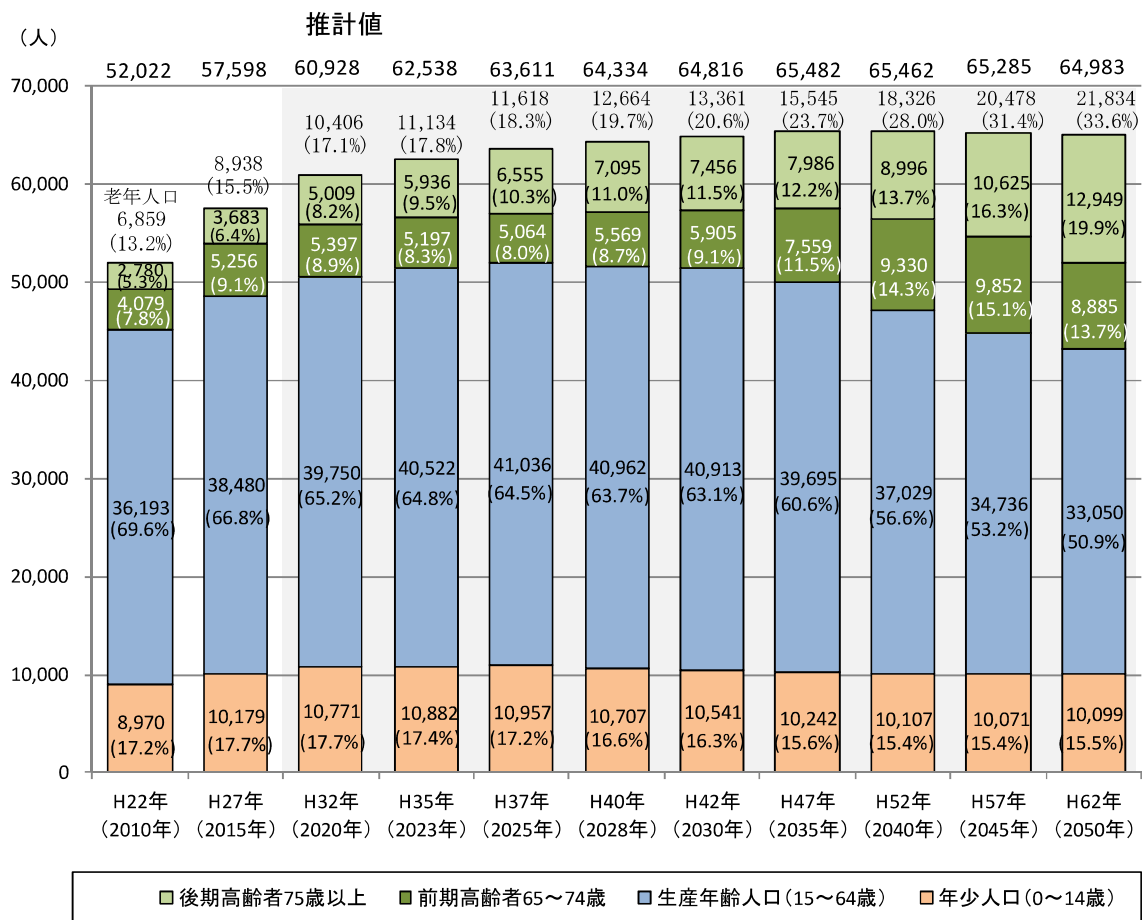
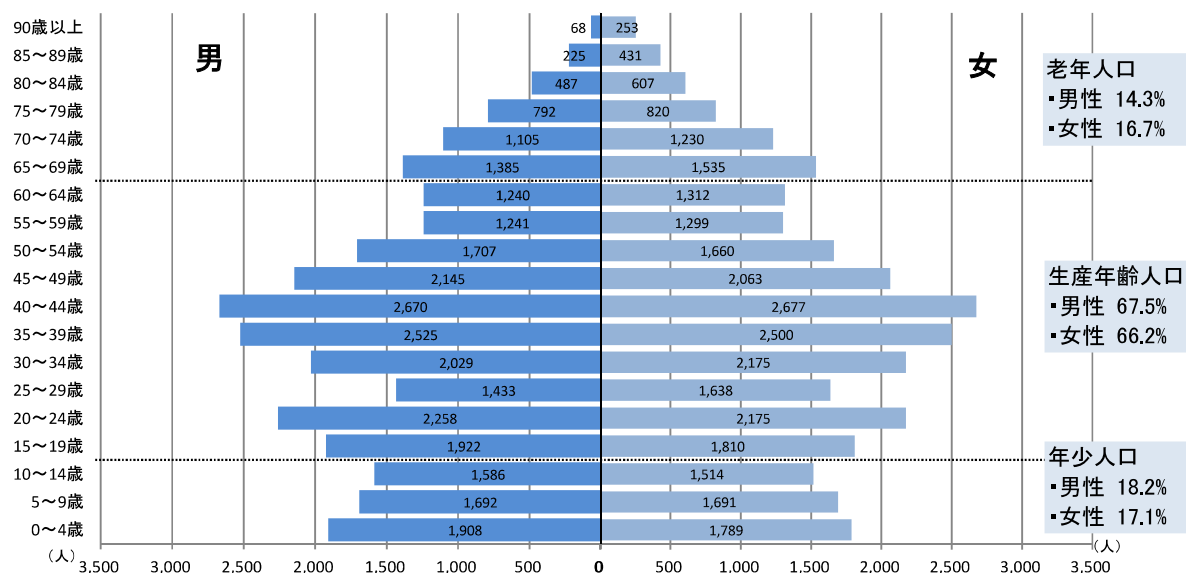


図 31 年齢3区分別人口推計

将来の推計人口

○ 男女ともに、老年人口の割合が増加しており、生産年齢人口の割合が減少しています。特に、50歳代が増加しています（図32）。

平成27（2015）年



平成40（2028）年（基本構想目標年次）

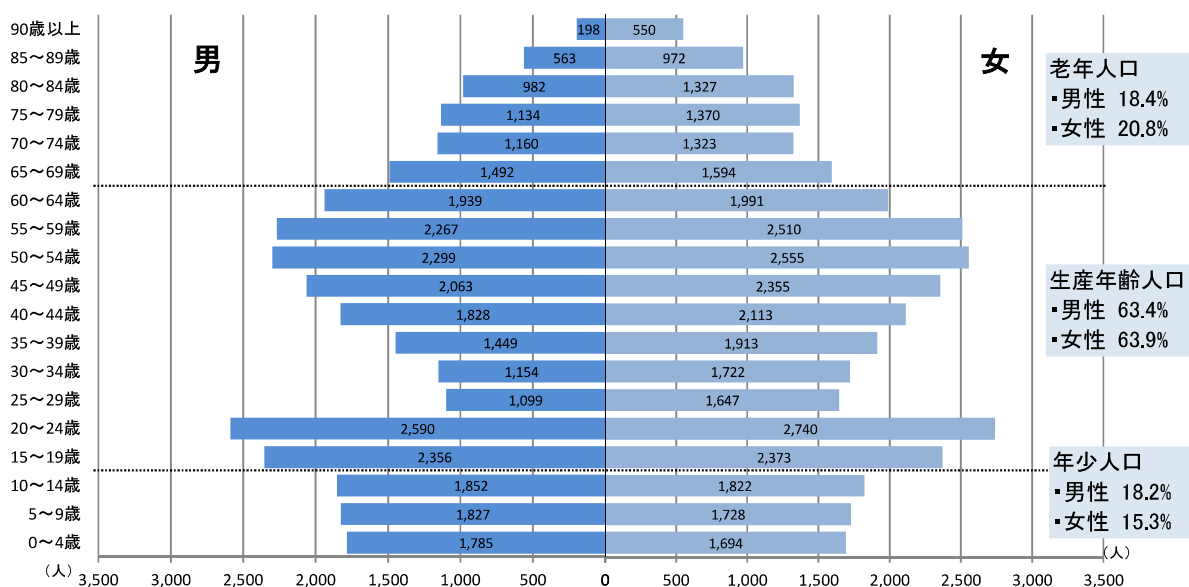


図32 人口ピラミッドの推計

将来の推計人口

○ 学区別では、長久手小学校区では平成 42（2030）年をピークに減少傾向、西小学校区、東小学校区、北小学校区では平成 47（2035）年をピークに減少傾向、南小学校区では平成 52（2040）年をピークに減少傾向、市が洞小学校区では平成 62（2050）年まで増加傾向が続くものと予測されます。（図 33、34、35）

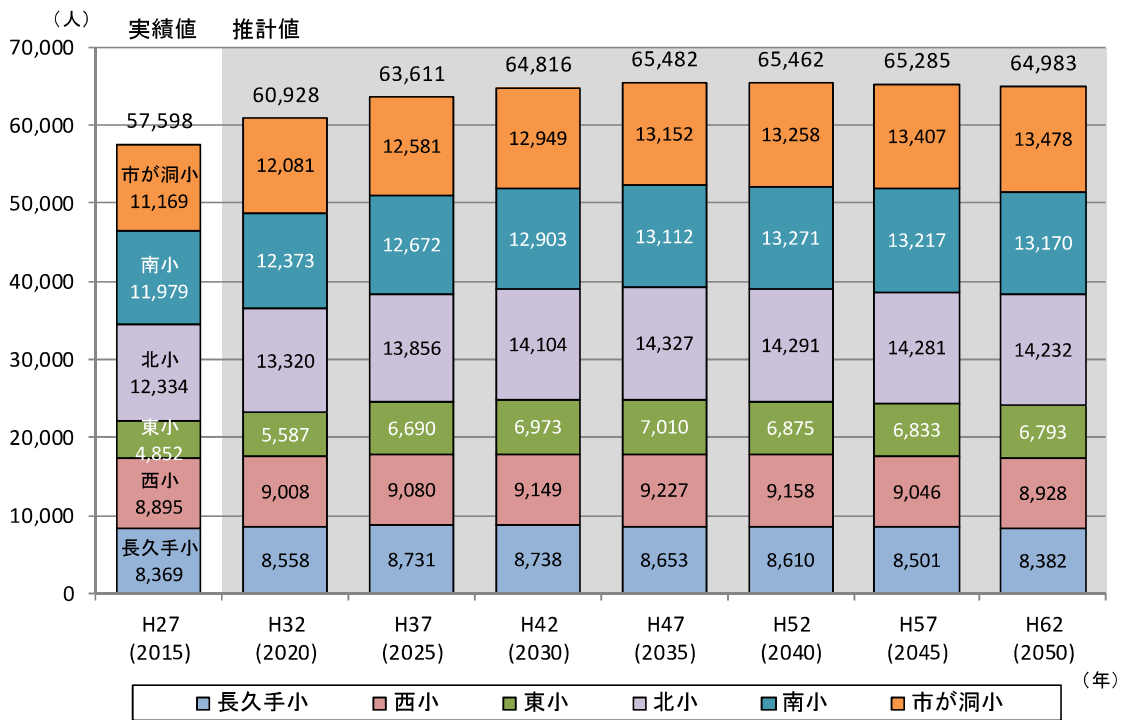


図 33 学区別人口推計

将来の推計人口

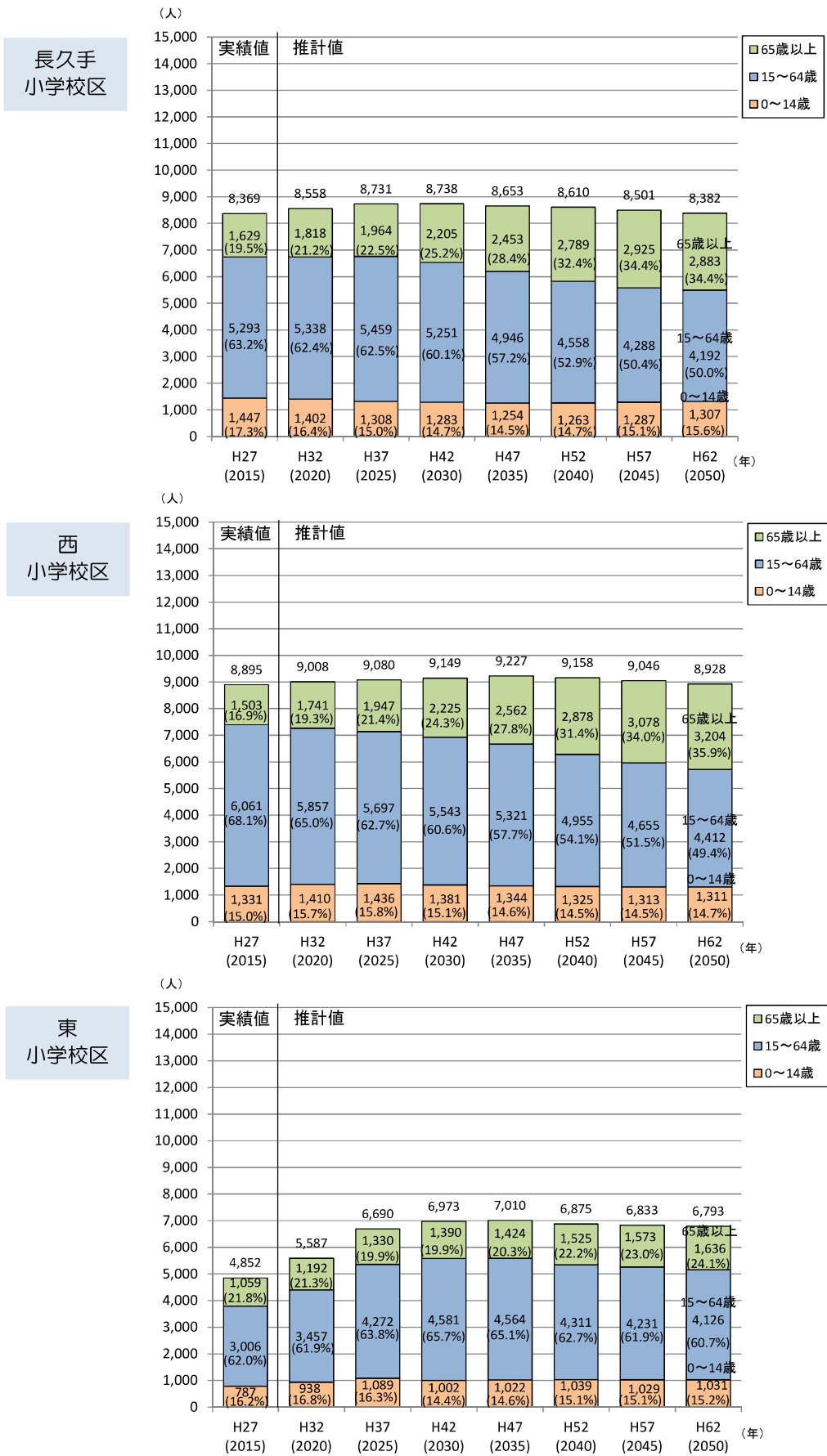


図 34 学区別年齢3区分別人口推計

将来の推計人口

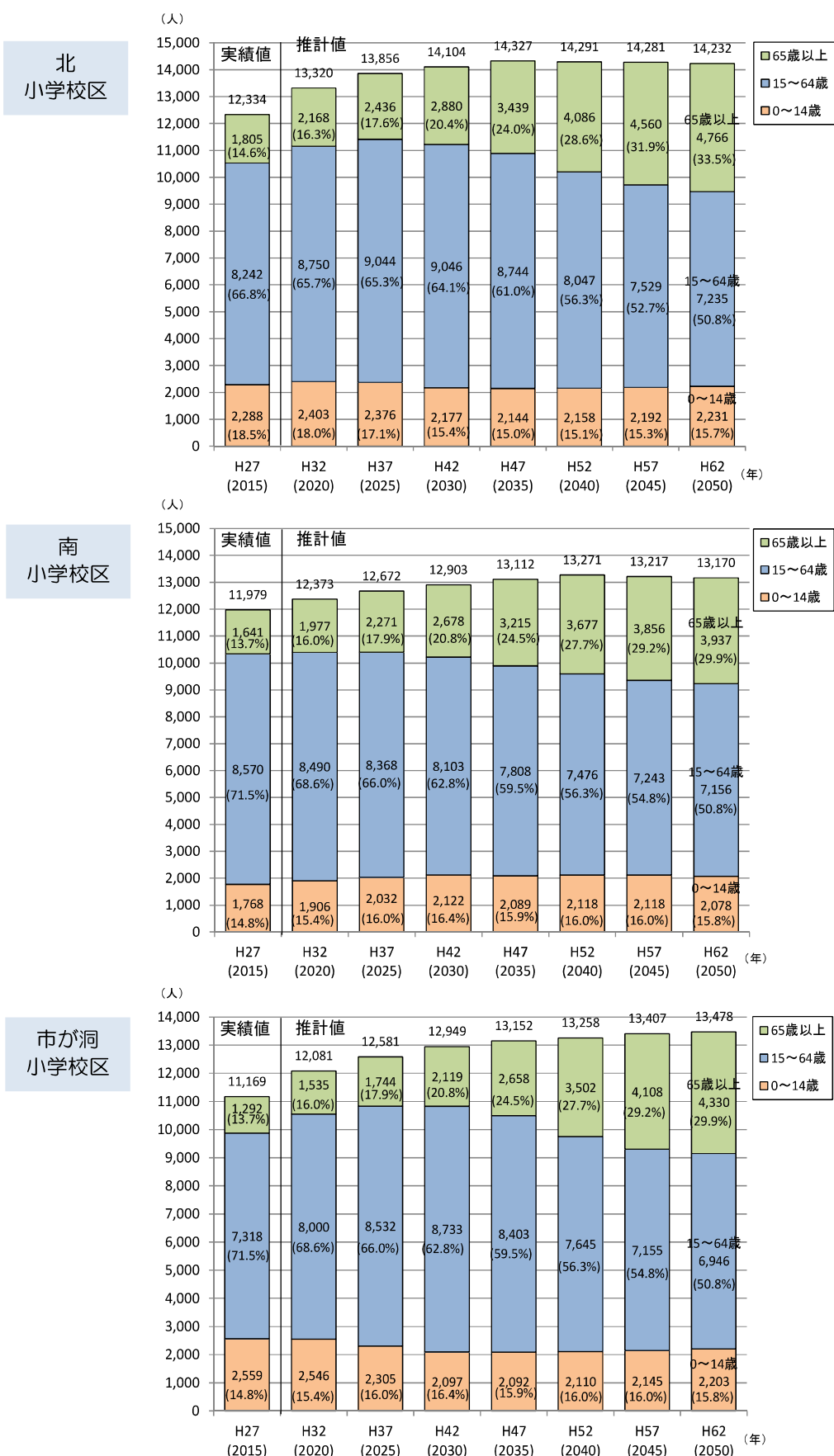


図 35 学区別年齢3区分別人口推計

長久手市人口推計

《参考》

諸条件

基準人口	平成27年10月1日国勢調査
生残率	本市の将来生残率 (国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25(2013)年3月推計)」)
子ども女性比	①本市の将来の子ども女性比 (国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25(2013)年3月推計)」) ②長久手市の実績(H27)をもとに、 人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」の本市の子ども女性比を補正
出生性比	本市の将来の0-4歳性比 (国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25(2013)年3月推計)」)
移動率	①本市の将来の純移動率 (国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25(2013)年3月推計)」) ②国勢調査(H22及びH27)の実績をもとに算出した純移動数から、大規模開発(H22-26開発分)による人口増加分を除外した純移動率。また、今後予定されている開発による人口増加分を推計に加味。
パターン検討	パターン1 子ども女性比①(社人研) × 移動率①(社人研)
	パターン2 子ども女性比②(市独自) × 移動率①(社人研)
	パターン3 子ども女性比①(社人研) × 移動率②(市独自)
	パターン4 子ども女性比②(市独自) × 移動率②(市独自)

人口推移		1970	1975	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010
実績値		S40	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17
		7,583	11,317	14,495	18,610	25,507	33,714	38,490	43,306	46,493
推計値		2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	
		H27	H32	H37	H42	H47	H52	H57	H62	
①パターン1		57,598	60,276	62,466	64,371	65,756	66,716	67,492	67,912	
②パターン2		57,598	60,550	62,996	65,161	66,875	68,243	69,402	70,271	
③パターン3		57,598	60,649	63,063	64,003	64,284	63,747	63,218	62,498	
④パターン4		57,598	60,928	63,611	64,816	65,482	65,462	65,285	64,983	
⑤H24人口推計			57,529	59,362	61,288	62,709	63,375	63,815	63,813	
⑥H19人口推計			H30: 63,400	H35: 65,400						

(人)

